

公益社団法人日本地震工学会

第1回 強震動評価のための表層地盤モデル化手法研究委員会

議事要旨

1. 日 時 平成26年10月9日(木)14時~17時00分

2. 場 所 建築会館307会議室

3. 議 題

- (1) 趣旨説明、委員紹介
- (2) 研究会の方向性について
- (3) 学会論文集について
- (4) 話題提供
- (5) その他

4. 配布資料

1-1 委員名簿

1-2 研究委員会の設置趣旨と研究の内容

1-3 前フェーズ「地盤情報データベースを用いた表層地質が地震動特性に及ぼす影響に関する研究委員会」におけるオーガナイズドセッション・ワークショップ開催状況

1-4 地震工学会論文集での企画案

5. 出席者

委員長 東(電中研)

委員 山中(東工大)、松島(京大)、植竹(東電)、王寺(中央開発)、池浦(鹿島技研)、南雲(東電設計)、早川(清水技研)、金田(竹中技研)、津野(鉄道総研)

オブザーバー 宮腰(鉄道総研)

6. 議事概要

(1) 趣旨説明、委員紹介(資料1-1、資料1-2)

- ・委員各自より自己紹介があった。
- ・東委員長より本研究委員会設置趣旨の説明があった。

(2) 研究会の方向性について(資料1-2、1-3)

・強震観測点の表層地盤モデルについて、気象庁の観測点を対象とし、第1段階として既往資料を整理する。その際は、地域ごとに担当者・グループで作業の分担をしてはどうかとの提案があった。

・地盤モデルは、地質データや速度モデルなどが考えられるが、基本的には速度モデルを対象とする。

・気象庁観測点の地震計設置状況を整理することの重要性について議論があった。可能であれば、次回の委員会で気象庁の方に話題提供して頂く。

・2016年ESG国際シンポジウム@台湾における日本のESG研究の成果発信について議論があった。日本側(本研究委員会が窓口)からの企画も含めて、今後の検討課題とする。

- ・講習会や地震工学論文特集号の企画を本研究委員会の成果とする。

- ・地震工学会大会でのセッションを企画する。

(3) 学会論文集について (資料 1-4)

- ・山中委員より、地震工学論文集の企画案の報告があった。
- ・企画テーマは、「(仮) 東北地方太平洋沖地震の強震記録と地盤震動特性」とする。
- ・特集号編集 WG は、本研究委員会の委員とする。
- ・特集号はレビューと個別研究で構成し、以下の 10 編程度を想定する。ほかに公募もあり。  
震源モデル (東大・三宅) : レビュー  
距離減衰 (東北大・大野) : レビュー  
長周期地震動 (鉄道総研・津野) : 個別研究  
地震動シミュレーション (京大・川辺) : レビュー  
表層地盤と強震記録 (京大・松島) : レビュー  
地盤の非線形 (振興会・野口) : 個別研究  
地盤の非線形 (鹿島・池浦) : 個別研究  
地盤の液状化 (東京電機大・安田) : レビュー  
地盤の液状化 (竹中・金田) : 個別研究  
地盤の液状化 (鉄道総研・上田) : 個別研究
- ・投稿までのスケジュール案としては、以下とする。  
2014 年 11 月 1 日 募集  
2015 年 3 月 30 日 受付開始  
2015 年 4 月 30 日 投稿〆切

(4) 話題提供

以下の 3 件の話題提供があり、活発な質疑応答があった。

- ・山中委員「立川断層帯周辺における表層地盤の S 波速度構造モデルの推定」
- ・山中委員「立川断層帯における重点的な調査観測プロジェクト」
- ・宮腰オブザーバー「P 波振幅を利用したオンサイト早期地震警報」

(5) その他

・本年度は後 2 回の研究委員会を開催予定 (2014 年 12 月、2015 年 2~3 月)。次回の委員会開催日は、12 月 12 日 (金) 13 : 30 - 17 : 00 とする。

以 上